

はじめに

山崎 茂 男

老人は昔話をなつかしむ。老人に近くなった私たちも、同世代の者が集まると、ついつい過ぎ去った日々の思い出を浮かびあがらせて、何かしら満足する。その話自体は、いまはなんのとりえのない話でも、それが何十年、何百年後のこの地域の人たちには、どれほどか大事な記録となっていくものだと思われる。現に古老の昔語りは実に貴重である。

この「第二集」では、日本の大変動期であった昭和二十年の太平洋戦争終結時を境として、その後の時期の福生の町づくりのうち、主に社会教育活動面をとりあげてみた。この時期のさまざまな活動のあとをたどり、また、その中心で活躍された人々に、その思い出を記録していただいた。

社会教育活動とは別であろうが、公立小・中学校の話題も、PTA活動とおりまぜてとりあげてみた。

終りの方に、福生を知っていたたく上での資料のもと、七夕祭り、福生音頭、結婚式など登場してもらった。

こうした企画、編集について、まことに場ちがいの人間の手がけたことで、あれもこれも手落ちだらけであり、ご迷惑やら重々失礼の点多いであろう。(ここに登場願わなければならぬ重要な人のことで記録もれも多いと思われる)

しかし、これはあくまでも後日への生の資料提供であるということ、その点はこんご皆さまのご指摘を仰ぎ、第三集以下で加筆修正させていただくことで、おゆるしを願いたい。

当方のそうしたいいかげんぶりにもかかわらず快く執筆され、また貴重な体験談、資料など提供してくださり、編集の終始にご協力くださった皆さまに心から感謝申しあげたい。

この「第二集」発刊目的のうち、編者がひそかに願ったものがある。社会教育関係のかつての人たちと、現役の人たちとが、この「第二集」からその共通点を見出し、大いに理解しあい、一層手をとりあって、福生市の文化向上に邁進していただけたならば、編者の感激これにつきるものはない。

目次

はじめに

座談会・福生町青年団……………二

青年団体連絡協議会……………三

福王会のこと……………三

社会教育のあれこれ……………五

福生の婦人会……………七

婦人会の発足と婦人町議のころ……………七

福生の陸上競技……………六

野球ばなし「オール福生」……………一八

福生の柔道会……………三九

体育女教師回想記……………三三

文化活動のながれ……………一四四

——福生町時代——

福生における戦後の文化活動について……………一五六

青年団と演劇活動……………一六五

特別寄稿・二宮青年と新劇……………一七三

“ひこばえ”のころ……………一八一

福生の文化連盟……………一八四

コーラスグループ第一号……………一九九

民謡おどりの“あやめ会”……………二〇一

吉野チエ……………三三

橋本孝蔵……………一四四

刈込一穂……………一五六

篠崎久治……………一六五

石川丈夫……………一七三

中村 浩……………一八一

山崎茂男……………一八四

須賀令子……………一九九

水谷貞子……………二〇一

福生に誕生した俳誌『霧の音』……………二〇四

福生市文化財調査会……………二〇七

道 芝 会……………二三五

福生中学校創立当時の思い出……………二四〇

新制中学十年のあゆみ……………二四八

——福生中学のあらすじ——

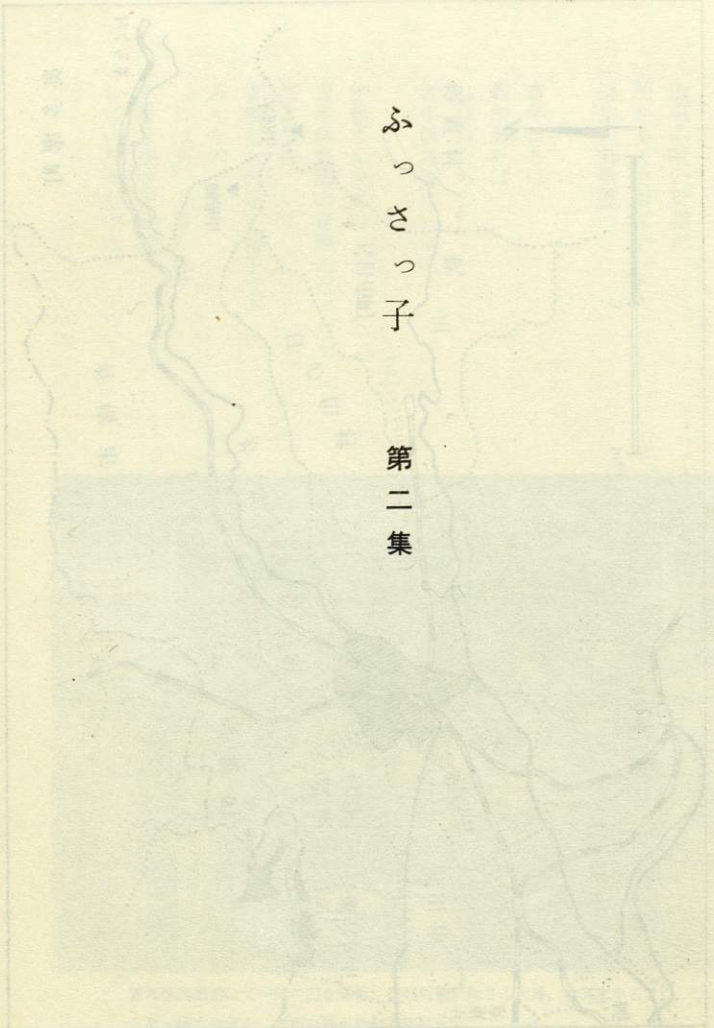
「母の会」から“PTA”……………二六〇

座談会・福生第三小学校とPTA……………二六六

第三小学校の十年……………二九七

学校給食の今昔……………三〇四

付 各校PTA会長氏名……………三〇四



ふっさっ子 第二集

七夕祭りのはじめ

七夕と福生音頭

結婚式

福生市(町)戦後文化史年表

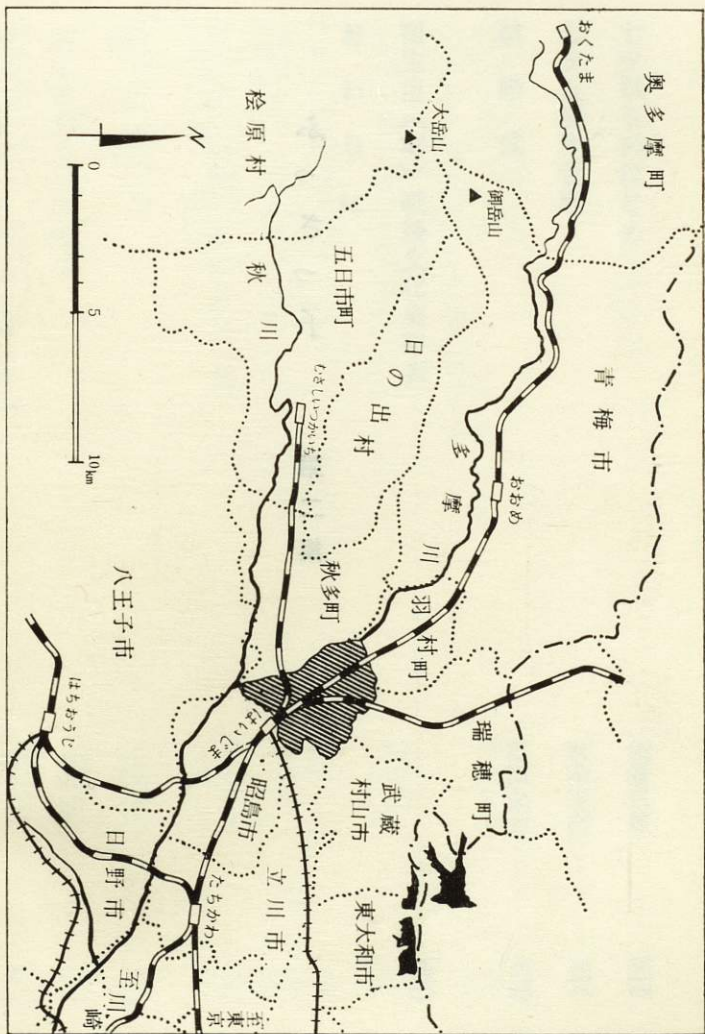
おわりに

佐藤三郎……………三〇四

坂本丁次……………三〇八

石川定七……………三三三

三〇〇



武蔵野台地の一角に多摩川のつくった段丘がある。西北に大岳山を望み、近くには多摩川が流れている。奥多摩の玄関口といわれる上州街、都心にも近く、住むには済むそのものである。麓田基地があるので、飛行機の騒音が響き、米人の姿、商店街などに異国風な面もみられる。“福生”——去年(45年)、市に昇格した新しい街である。

敗戦の暗い世相を
 明かるくさせていった
 福生の若衆連

青年たちは
 暇があれば
 “自分たちの”
 青年倶楽部にいった

伊藤さん夫婦は
 青年倶楽部の管理人だったが
 何よりの
 青年たちの話し相手であり
 みんなの
 “おばあ”と言われて
 それを生き甲斐に
 していた人だった。



青年倶楽部前にて一同の記念撮影。前列両側伊藤さん夫婦、前列左から2人目が橋本孝蔵氏、後列左端が故細谷利男氏